

2 事業の概要

I 学園全体

1. 経営効率化委員会「業務改革プロジェクト」を組織

「組織の見直し、個々の実力を発揮できる環境の整備」の具体案を検討するため、全学園の教職員が参加するプロジェクトチーム「業務改革プロジェクト」を編成した。プロジェクトでSD活動を行い、教員の経営参画意識の醸成と職員の能力向上をはかり教職員協働を実質化させる。

学園、大学運営、人事、IT・システム導入、入試広報に関する17のテーマでチームを編成し、業務改革に取り組むこととした。

2. 施設の有効活用

他中学・高等学校・大学等にプログラムを提供し、ボストンキャンパスの有効活用に努めた。また、初等教育学科学生向けの春季アメリカ教育研修を新たに実施した。

3. キャンパスの整備・改修工事

2009年度に行った大型の改修工事は以下の通りである。

改修内容	金額
学生寮 緑声舎 空調整備工事（第Ⅲ期）	84,997,500 円
学生寮 緑声舎 寮室改修工事	31,050,180 円
大学 視聴覚・パソコン等機器整備	55,687,380 円
大学2号館 エレベータ更新工事	23,100,000 円
中高部 アスベスト撤去工事	3,226,650 円
初等部 グラウンド補修	5,250,000 円
学園全体 デジタル放送対応工事・LAN機器更新	25,499,880 円

4. 健全な財政基盤の整備

A 人件費比率の低減

任期制による新規採用で若返りを推進し、冬季から教職員の評価制度を改正した。

B 奨学金基金の募金

創立90周年までに1億円の募金獲得を目標に「昭和学園奨学金基金」を募った。基金の総額は以下の通りである。

2009年度	募金総額	9,961,733 円（3月31日集計）
	累計額	151,228,000 円

5. 共同教職大学院認可申請の取り下げ

5女子大学による共同教職大学院は、申請書類で研究科長候補者の経歴詐称が明らかとなり、認可申請を取り下げた。

6. 優秀者の表彰と奨学金の贈呈

人見記念奨学生（人物および成績が著しく優秀な者、全学園の範となる善行又は美事をなした者：大学院・大学・短大・高等学校）、成績優秀奨学生（人物および成績優秀者：大学院・大学・短大・高等学校）を創立記念式典において表彰し、奨学金を贈呈した。2009年度の奨学生数は次の通りである。

種別	部門	人数
人見記念奨学生	大学院	2人
	大学	30人
	短期大学部	2人
	高等学校	6人
	合計	40人
成績優秀奨学生	大学院	6人
	大学	122人
	短期大学部	12人
	高等学校	46人
	合計	186人

7. 各種媒体による紹介

2009年度に本学園関係者がマスコミで紹介された主な記事数は以下の通りである。

氏名	媒体
坂東真理子 学長	テレビ4・新聞25・雑誌70
前原金一 副理事長	雑誌1・新聞4
川平朝清 監事	テレビ1
田部井淳子 理事	テレビ1・ラジオ1
英米文学専攻 渡辺利雄 特任教授	新聞2
英米文学専攻 平井法教授	新聞1・雑誌1
生活機構学専攻 飯野久和教授	雑誌1
生活機構学専攻 木村修一特任教授	雑誌1
日本語日本文学科 吉田昌志教授	雑誌2
歴史文化学科 菊池誠一教授	新聞1
歴史文化学科 菊池誠一教授、環境デザイン学科 友田博通教授	テレビ1
歴史文化学科 増田勝彦教授	テレビ1
歴史文化学科 阿部美香非常勤講師	新聞6
歴史文化学科 大山正雄非常勤講師	新聞1
心理学科 渡邊佳明教授	雑誌1
環境デザイン学科 佐野武仁教授、芦川智教授、内田敦子助教、田村圭介専任講師	書籍1
管理栄養学科 大木和子准教授	テレビ1
管理栄養学科 原正美准教授	雑誌1
初等教育学科 横山文樹教授	雑誌1
子ども教育学科 駒谷真美准教授	テレビ2・雑誌1
近代文化研究所 佐藤美恵子主任	雑誌5
総合教育センター 小池俊夫教授	雑誌14
進路支援センター 梅田昌照嘱託職員	新聞1

氏名	媒体
初等部 小泉清裕副校長	雑誌 2
昭和中学校 3 年生	新聞 1
昭和中学校コーラス部	ラジオ 1
生活環境学科 4 年 堀内奈緒美	新聞 1
初等教育学科 4 年 飯島美佳	雑誌 1
子ども教育学科 生澤麻美、小林美貴子、仲村めぐみ、小川美里(卒業生)	書籍 1
初等教育学科 学生	テレビ 1
文化創造学科 学生	テレビ 1
環境デザイン学科 卒業制作展 2009	テレビ 1・雑誌 1
昭和女子大学	雑誌 1
NPO 昭和 おでかけひろば SHIP	新聞 1
再就職支援講座 元気にママチャレ	テレビ 2・新聞 1

II 大学院・大学・短期大学部

1. 学部・学科の改組

下記学科の設置と入学定員を変更して改組を実施した。

- ① 設置：人間文化学部国際学科（入学定員 70 人）
- ② 設置：生活科学部健康デザイン学科（入学定員 75 人）
- ③ 名称・定員変更：生活科学部環境デザイン学科（旧生活環境学科）・入学定員 160 人（20 人減）
- ④ 名称・定員変更：人間社会学部福祉社会学科（旧福祉環境学科）・入学定員 70 人（10 人増）
- ⑤ 名称変更：生活科学部管理栄養学科（旧生活科学科）
- ⑥ 定員変更：人間文化学部歴史文化学科・入学定員 85 人（10 人増）
- ⑦ 定員変更：人間社会学部心理学科・入学定員 75 人（15 人増）
- ⑧ 定員変更：短期大学部文化創造学科・入学定員 120 人（30 人減）

2. 自己点検・評価活動

A 財団法人大学基準協会の評価項目に従って「2009 年度自己点検・評価」を行い、報告書を作成した。
また、外部委員を招聘して本報告書に関する第三者評価を得た。

B 自己点検・評価実施委員会等に関する規程を改正し、自己点検・評価の取組をより実質化させた。

参考：自己点検・評価活動

5月28日(木)	第1回 自己点検・評価実施委員会 2009年度到達目標と自己点検評価実施方法を承認
6月3日(水)	第1回 自己点検・評価実施小委員会 前年度結果報告と今年度の実施法穂について
12月10日(木)	第2回 自己点検・評価実施委員会 2009年度自己点検評価報告書原案を承認
3月15日(月)	自己点検・評価外部評価委員会 自己点検・評価の結果に関して第三者の評価を受ける。 外部委員：福田謙之（金沢工業大学 事務局長） 滝紀子（学校法人河合塾 教育研究開発部教育研究部長） 小林浩（株式会社リクルート カレッジマネジメント編集長）

参考：認証評価に向けた取組

5～7月	大学院研究科・大学・短大・事務部門で自己点検・評価報告の作業に取り組む
7～11月	認証評価推進本部が大学基準協会の評価基準で「自己点検・評価報告書案」を点検
11月	関係部署が修正した「自己点検・評価報告書案」を再検証
1～3月	事務部門を中心に大学基準協会への提出用資料を準備
1～3月	副学長を中心に「自己点検・評価報告書」を最終確認

3. FD 活動の推進

部局長会の専門委員会として FD 推進委員会を新たに組織し、委員会を合計 10 回開催した。

2009 年度は、授業改善アンケートと改善報告書の公開、授業公開、FD 講演会、FD サロンを実施した。

A 授業改善アンケートと改善報告書（大学・短期大学部）

受講者数 10 人以上の全授業科目（非常勤は任意）を対象に、前期 7 月・後期 2 月にアンケートを実施した。結果をまとめて改善報告書を作成し、授業単位のを学内ウェブサイトで、学科単位のを学外向けウェブサイトで公開した。

B FD アンケートと改善報告書（大学院）

カリキュラムから研究環境までを評価するアンケートを前期 7 月、後期 2 月に実施した。結果を各研究科教授会で報告し、専攻ごとに改善報告書を作成して学内ウェブサイトで公開した。

C 授業公開

授業のピアレビューにより新たな知見を得るために、前期は 6 月、後期は 10 月から 12 月に授業公開を実施した。

公開授業科目数	前期 79 科目、後期 159 科目
---------	--------------------

D FD 講演会

総合的な教育力の向上をめざして FD 講演会を開催した。

前期は全体テーマを『工夫した授業を行うために』とし、テーマ A：教育資料提示機器を使用する授業、テーマ B：教育資料提示機器を使用しない授業、の分科会で各 2 講演を開催した。

後期は学生支援の現代的課題をテーマとした講演会を開催した。

■5 月 27 日開催：参加者数・約 130 人

テーマ A	PowerPoint を用いた講義のメリットおよびデメリットとその対処 心理学科 藤島喜嗣准教授 ホームページ作成からプレゼンテーションソフトへの変遷 総合教育センター 田中康善教授
テーマ B	「わかりやすさ」と「組み立て」の模索 日本語日本文学科 猪熊雄治教授 授業はきちんとお聴きなさい 初等教育学科 鈴木円准教授

■1 月 20 日開催：参加者数・約 70 人

テーマ：気になる学生への対応について 学生相談室委員会委員長 丹羽正子教授 学生相談室委員会運営担当 田中奈緒子准教授・石井正子講師 学生相談室カウンセラー 津曲恵子先生
--

E FD サロン

教員相互が意見を交換しあう場として FD サロンを開催した。

開催日	参加者数・対象者	主なテーマ
7 月 8 日	約 50 人	工夫した授業を行うために
10 月 14 日	新任教員・教務部委員	前期授業を行った感想および今後の課題等

4. 科学研究費補助金採択状況

2009年度に、科学研究費補助金に採択された研究は以下の通りである。(新規 8・継続 17 合計 25 件)

種別	研究内容	氏名
[新規] 基盤研究 B (一般)	学校・家庭・地域連携型道徳教育推進プログラムの開発に関する総合的研究	押谷由夫 教授
[新規] 基盤研究 C	昭和時代の食物に関する記述データの保存と食文化史的解析 —新聞・雑誌・書籍—	大橋きょう子 教授
[新規] 基盤研究 C	複雑化する社会的ニーズに対応する保育・養護サービスモデルの構築 —生活時間研究から	月田みづえ 教授
[新規] 基盤研究 C	ベトナム北部農村集落における伝統衣服の研究	谷井淑子 教授
[新規] 基盤研究 C	EBNに基づくメタボリックシンドローム改善のための新栄養教育法の 効果の評価	渡辺満利子 教授
[新規] 学術図書	Development Research on Media Literacy Education from Early Childhood through Latter Childhood	駒谷真美 准教授
[新規] 学術図書	桂太郎関係文書	千葉 功 准教授
[新規] 若手研究 B	将来予測における自己知識の役割と時間的距離による自己知識適用の 調整効果	藤島喜嗣 准教授
[継続] 基盤研究 A (一般)	教育財政および費用負担の比較社会学的研究	矢野真和 教授
[継続] 基盤研究 B (一般)	大正・昭和期の服飾に関する記述データの保存と生活文化史的解析 —新聞・雑誌・文芸—	安藏裕子 教授
[継続] 基盤研究 B (一般)	日本人英語学習者の話し言葉・書き言葉コーパスの整備と それに基づく語用論的対照分析	池上嘉彦 教授
[継続] 基盤研究 B (一般)	中国内漢族・モンゴル族・朝鮮族の言語文化変容に関する 社会言語学的研究	李 守 准教授
[継続] 基盤研究 C	玄証本及び旧高山寺本等の密教図像についての基礎的研究	内田啓一 教授
[継続] 基盤研究 C	近世東南アジア交易世界の研究 —日本町ネットワークを中心に—	菊池誠一 教授
[継続] 基盤研究 C	冷戦終焉後の新国際秩序形成と小国ラトヴィヤの研究 —1920年代との比較研究から—	志摩園子 教授
[継続] 基盤研究 C	味覚受容体発現を指標とする居住地域および食事摂取が味覚形成に 及ぼす影響の解析	高尾哲也 教授
[継続] 基盤研究 C	別荘地から定住地に転換したシニアタウンにおける高齢者の居住環境の 再編に関する研究	竹田喜美子 教授
[継続] 基盤研究 C	社会的情報の処理における感情制御過程の影響	田中知恵 講師
[継続] 基盤研究 C	トルコにおける都市構造と市場空間の活用に関する研究	鶴田佳子 准教授
[継続] 基盤研究 C	幼児の園生活理解の発達過程：家庭での様子からの検討	藤崎春代 教授

種別	研究内容	氏名
[継続] 基盤研究 C	漢語の影響下におけるモンゴル語近代語彙の形成	呼和巴特爾 准教授
[継続] 基盤研究 C	易摂食性食品における咀嚼・嚥下特性と力学特性の関係	森高初恵 教授
[継続] 基盤研究 C	縄文時代における柄鏡形(敷石)住居址の研究	山本暉久 教授
[継続] 基盤研究 C	ベトナム考古学データベースの構築	阿部百里子 研究員
[継続] 挑戦的萌芽研究	接続期を意識したメディア・リテラシー教育の幼小連携カリキュラムの開発と実践	駒谷真美 准教授

5. 委託研究・研究助成等

2009年度に、企業等から委託・助成を受けた研究は以下の通りである。(12件)

研究内容	種別	企業等	氏名
食環境づくりにおける、健康や食・栄養に関するPR用印刷物の版下データの作成	委託研究	世田谷区世田谷保健所	石井幸江 准教授
旅行時の便通の乱れに対するラブレ菌の有効性の検証	共同研究	カゴメ株式会社	小川睦美 准教授
近世朱印船貿易絵図の研究 —情妙寺「絵図」と九博「絵図」の比較—	研究助成	財団法人 出光文化福祉財団	菊池誠一 教授
シベリアカラマツの糖尿病に対する効果の検討	委託研究	株式会社 DHQ	木村 修一 特任教授
健全な妊婦を対象として、食事栄養調査および意識調査を実施	共同研究	森永乳業株式会社	志賀清悟 教授
「ミューファン®保存容器の食品寿命延命力」についての研究	共同研究	株式会社ミューファン	高尾哲也 教授
浮遊粒子状物質(SPM)および大気汚染物質の脳型多変量解析技法の開発	研究助成	財団法人 鉄鋼業環境保全技術開発基金	中山栄子 教授
「江戸城・本丸御殿の一部の映像的復元のための基礎データ作成および基礎研究」 建築考証図面の作成と調査報告・第2期(B) ～江戸城・本丸表・白書院・柳ノ間～	共同研究	日本放送協会	平井 聖 特任教授
「江戸城・本丸御殿の一部の映像的復元のための基礎データ作成および基礎研究」 建築考証図面の作成と調査報告・第2期(C) ～江戸城・本丸表・黒書院を中心とした建造物～	共同研究	日本放送協会	平井 聖 特任教授
飲料の飲み心地に関する研究	共同研究	株式会社伊藤園	森高初恵 教授
植物抽出物の持久的運動能力増強効果に関する研究	研究助成	タマ生化学株式会社	渡辺 睦行 専任講師
発酵大豆たん白質のマウス持久力増強効果に関する研究	研究助成	財団法人 不二たん白質研究振興財団	渡辺 睦行 専任講師

6. 現代 GP 等プログラムの実施

A 大学教育・学生支援推進事業

2009 年度に実施した大学教育・学生支援推進事業選定取組は以下の通りである。(2 件)

選定年度	プログラム名	取組名称	期間
2009 年度 (新規)	テーマ A 大学教育推進プログラム	緊急課題への対応：実社会連携型 キャリアビジョン育成プログラム	3 年間
2009 年度 (新規)	テーマ B 学生支援推進プログラム	『デザインする力』育成プログラムの体系化	3 年間

B 現代的教育ニーズ取組支援プログラム

2009 年度に実施した現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定取組は以下の通りである。(1 件)

選定年度	テーマ名	プログラム名	期間
2007 年度 (継続)	実践的キャリア教育の推進	「つながる」生涯学習の実践的キャリア教育	3 年間

C 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム

文部科学省からの委託を受け、2009 年度に実施した社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムは以下の通りである。(1 件)

受託年度	講座名
2007 年度 (継続)	元気に再チャレンジ！ 産学地域が連携する女性の学び直し・再就職支援プログラム

7. 海外研修プログラム

A 昭和ボストン研修プログラム (4 プログラム)

1. [対象] 人間文化学部英語コミュニケーション学科・短期大学部文化創造学科

プログラム名	研修期間	参加人数
英語コミュニケーション学科 (必修・1 学期間) プログラム名=University	9 月 22 日→2 月 18 日	133 人
英語コミュニケーション学科 (選抜型・約 10 か月間) プログラム名=Four Seasons Program	4 月 13 日→2 月 18 日	23 人
英語コミュニケーション学科 (選抜型・約 17 か月間) プログラム名=Boston Long-term Intensive Program	9 月 17 日→2011 年 2 月	19 人
文化創造学科 (選択制・約 3 か月間)	9 月 1 日→12 月 16 日	16 人

2. [対象] 全学科 (1 プログラム・8 テーマ)

プログラム名	研修テーマ	参加人数
ボストン・サマーセッション 研修期間 8 月 17 日→9 月 15 日	アメリカ文化	18 人
	ボランティア	4 人
	アメリカ食文化	19 人
	ミュージアム	17 人
	教育 (アメリカ教育)	2 人
	教育 (初等教育)	4 人
	心理学	9 人
	ビジネス英語	6 人

3. [対象] 英語コミュニケーション学科以外の学部学科

プログラム名	研修期間	参加人数
春期 15 週間ボストンプログラム	4 月 14 日→7 月 29 日	15 人

4. [対象] 日本語教育・栄養士・教職関係

プログラム名	研修期間	参加人数
日本語教育実習	2 月 19 日→3 月 6 日	3 人
アメリカ栄養士研修	2 月 19 日→3 月 6 日	24 人
春季アメリカ教育研修	2 月 19 日→3 月 7 日	15 人

B ヨーロッパ研修旅行

プログラム名	研修期間	参加人数
春季ヨーロッパ研修	2 月 22 日→3 月 6 日	20 人
イタリア食文化研修	2 月 22 日→3 月 5 日	12 人
海外デザイン演習・プロダクト服飾	9 月 9 日→9 月 19 日	20 人
海外デザイン演習・建築	8 月 31 日→9 月 12 日	75 人

C 海外宿泊研修

各学科で実施した海外宿泊研修は、以下のとおりである。

プログラム名	期間	担当学科・専攻
西江大学（韓国）交流プログラム	10 日間	大学院言語教育・コミュニケーション専攻
日本語教育実習（韓国）	2 週間	日本語日本文学科
日本語教育実習（ベトナム）	2 週間	日本語日本文学科
ベトナム考古学調査	2 週間	歴史文化学科
北欧研修旅行	9 日間	福祉社会学科
アジア教育研修（タイ・カンボジア）	12 日間	初等教育学科
ソウル女子大学語学集中講座	3 週間	国際協力室
ソウル女子大学夏期交流プログラム	11 日間	国際協力室

D 海外協定校との交換留学制度

上海交通大学に 2 人、ソウル女子大学に 3 人が交換留学し、ソウル女子大学から 3 人の交換留学生を迎え入れた。

8. 地域貢献・連携活動

A 子育て支援フェスタ

世田谷区後援・NPO 昭和等との共催で、子育て支援フェスティバル「三茶子育てファミリーフェスタ in 昭和女子大学」を本学キャンパスで開催した。

イベント名	三茶子育てファミリーフェスタ in 昭和女子大学
内容	学生と地域との協働による子ども子育て支援情報の提供
開催日時	2009年7月26日 13:00→16:00
主催者等	主催：昭和女子大学／共催：特定非営利活動法人 NPO 昭和 後援：世田谷区／協力：太子堂1丁目町内会
参加団体数	子育て支援団体：36団体／協賛企業：4社 ボランティア学生：130人
来場者数	約1,400人

B エフエム放送による地域情報の提供

学生が企画・制作・放送する地域情報番組をエフエム世田谷の協力を得て運営した。

番組名	内容	放送時間
What's Up Setagaya!	英語による情報番組	毎週日曜日 8:55～9:10
子育てまナビ	子育て支援施設やイベントの紹介	毎週水曜日 12:45～13:00

9. 進路・就職支援

A 就職支援プログラム

2009年度に実施した学部・短大生向け就職支援プログラムは、以下の通りである。

■就職ガイダンス（2回）

日付	内容
7月8日	就職ガイダンス（第1回）
10月7日	就職ガイダンス（第2回）

■就職活動支援講座（17回）

日付	内容
10月16日	自己分析講座
11月11日	就職活動全体マナー講座
11月20日	エントリーシート対策講座
11月30日	自己PR作成講座
12月2日	就活モチベーションアップ講座
12月4日	面接対策講座[知識編]
12月9日	印象力&プレゼンテーション講座
12月12日	グループワーク・ディスカッション対策講座
12月12日	面接対策講座（実践編）
12月18日	履歴書作成講座
1月28日	アサーション講座
1月29日	印象力&プレゼンテーション講座
2月12日	筆記試験対策講座①
2月13日	筆記試験対策講座②
2月15日	直前マナー講座
2月16日	集団面接対策講座（～19日）
2月25日	グループディスカッション&ワーク対策講座

■業界研究（13回）

日付	内容
10月9日	マスコミ/放送
10月14日	マスコミ/出版
10月21日	マスコミ/新聞
10月27日	業界研究講座① 業界研究入門講座
10月28日	業界研究講座② 金融業界研究
10月29日	業界研究講座③ メーカー（医薬品、食品など）
10月30日	業界研究講座④ サービス産業研究（旅行、ホテル、百貨店、航空など）
11月5日	業界研究講座⑤ まとめ
11月13日	広告
11月16日	金融
11月17日	ブライダル
12月10日	旅行
1月27日	アパレル

■内定者報告会・座談会（5回）

日付	内容
7月22日	第1回内定者報告会
10月26日	第2回内定者報告会
1月19日	内定者との懇談会 金融
2月17日	内定者との懇談会 流通
2月18日	内定者との懇談会 食品

■学内企業説明会（5回）

日付	対象学年
10月30日	学部4年生・短大2年生
12月7日	学部3年生・短大1年生
12月24日	学部4年生・短大2年生向け
2月10日	学部4年生・短大2年生向け
2月15日	学部3年生・短大1年生（～19日）

■光葉キャリア塾（11回）

日程	キャリア支援プログラム
6月23日	キックオフ
7月15日	活動計画発表、【勉強会】 日本経済新聞の読み方
9月25日	自己分析と自己PRについて考える
10月22日	【勉強会】 就職活動のすべて①
11月2日	【勉強会】 就職活動のすべて②
11月8日	【同窓会】 見つけよう！私の働き方
11月10日	【講演】 グローバルキャリア -私のチャレンジ-
11月18日	【勉強会】アサーティブコミュニケーション講座
12月1日	【勉強会】 意志決定シミュレーション
12月3日	【勉強会】 グループディスカッション対策講座
12月11日	【勉強会】 グループワーク対策講座

B インターンシップ

2009年度は100の企業・団体で159人の学生がインターンシップを体験した。

■主な企業

マスコミ・出版	RKB 毎日放送報道局、毎日新聞エコノミスト編集部、読売新聞編集局英字新聞部、読売新聞東京本社、スポーツニッポン新聞社、共同通信社、毎日映画社、中央公論新社、旺文社、三省堂
官公庁・公的機関	農林水産省、石油資源開発、日本貿易振興機構(JETRO)、国会議員事務所、世田谷区役所、世田谷文化財団、国土交通省、狛江市教育委員会
ホテル・運輸・旅行	富士屋ホテル、ホテルオークラ東京、シェラトングランデ・トーキョーベイホテル、ホテルニューオータニ、京王プラザホテル、JTB 地球倶楽部、JTB 首都圏、アサヒトラベルインターナショナル、フェデラルエクスプレス、薬師寺
建設・設備	戸田建設、鹿島建設東京支店、大林道路、大成建設、日本ハウズイング、三菱電機ビルテクノサービス
情報・電気	スマセイ情報システム、日本エマソン、内田洋行、日本ビジネスコンピューター、イトーキ
流通・消費・金融	立花証券、新生銀行、東京銀行協会、りそな銀行、三松、東急百貨店、オンワード樫山、ポロラルフローレン、レオックジャパン、神奈川トヨタ自動車、佐川急便

C 進路状況

2009年度卒業生の進路は以下の通りである。

1. 卒業生数に対する進路動向の人数と割合 (2010年5月1日現在)

卒業生数		進学決定者		就職決定者		その他	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
大学	950人	49人	5.2%	745人	78.4%	156人	16.4%
短大	349人	93人	26.6%	160人	45.8%	95人	27.5%

2. 就職決定率 [就職決定者 / (卒業生数 - 進学決定者)]

	就職決定者	卒業生数	進学決定者	就職決定率
大学	745人	950人	49人	82.7%
短大	160人	349人	93人	62.5%

3. 就職決定率 [就職決定者 / 就職希望者]

	就職希望者	就職決定者	就職決定率	参考(全国)
大学	816人	745人	91.3%	90.2%
短大	184人	160人	87.0%	88.4%

D 主な就職先

2009 年度卒業生の主な就職先は以下の通りである。

学科名	主な就職先
日本語日本文学科	みずほフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、アイティーシネットワーク、JR東日本、山和証券、住友不動産販売
英語コミュニケーション学科	全日本空輸、りそなグループ、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、住友電気工業、明治安田生命保険、東洋アルミニウム、郵船航空サービス
歴史文化学科	みずほフィナンシャルグループ、りそなグループ、三井住友銀行、東洋アルミニウム、日本通運、三菱電機ビルテクノサービス、高島屋、丸三証券、地方公務員（図書館・歴史資料館等）
心理学科	みずほフィナンシャルグループ、ダイキン工業、三菱電機ビルテクノサービス、八十二銀行、富士通エフ・アイ・ピーシステムズ
福祉環境学科	みずほフィナンシャルグループ、京葉銀行、カネボウ化粧品販売、郵便局、清水建設、筑波記念病院（医療ソーシャルワーカー）、地方公務員（福祉職）
現代教養学科	みずほフィナンシャルグループ、三菱UFJトラストシステム、明治乳業、東京ガス、サントリーパブリシティサービス、三井不動産販売、損保ジャパン、大塚商会
初等教育学科	公立小学校、私立幼稚園、地方公務員（保育士）、千葉興業銀行、野村ビジネスサービス
生活環境学科	大和ハウス工業、大成建設、住友林業、戸田建設、パナホーム、パナソニック 電工ホームエンジニアリング、ウエストホールディングス、ジュングループ、みずほフィナンシャルグループ、三菱UFJ証券、郵便局
生活科学科	セイジョー、にんべん、ヤマザキナビスコ、赤城乳業、シダックス、レオック ジャパン、日清医療食品、菱食、東京銀行協会、富国生命
短期大学部 文化創造学科（専攻科含む）	キヤノン、住友電設、東京信用保証協会、日本通運、ヒロセ電機、スターツグループ、日本化学繊維検査協会、品川プリンスホテル、三越、ワールドストアパートナーズ
短期大学部 食物科学科（専攻科含む）	グリーンハウス、ジャパンウエルネス、モロゾフ、なとり、菱食、エームサービス関東、ヒロセ電機、オンワード樫山、日清医療食品
短期大学部 子ども教育学科（専攻科含む）	公立小学校、私立幼稚園、地方公務員（保育士）

Ⅲ 附属校

昭和中学校・昭和高等学校

1. カリキュラムの検討

カリキュラム検討委員会において、2007年度からの新カリキュラムに関する検証・検討を行い、2010年度から高等部3年次に4科目を新設することを決定した。

2. 週6日制への移行

2009年度から週6日登校制を導入し、授業時数を週31時間から34時間(6年生は週30時間から33時間)として3時間増加させた。これによる主な成果は、以下の通りである。

教科科目	成果
国語	1年次は授業時数を1時間増やして授業内容を充実させた。 5年次に古典を必修とし、基礎知識の定着につなげた。 6年次に小論文を新設し、細やかな指導を行った。
社会	3・4・6年次の授業時間数増で、より詳しく重要事項を説明した。
数学	5年次に数学Ⅱを必修とし、4年次後半から導入を実施した。
理科	増加時間数を演習や実験にあて、学習の定着度を向上させた。
家庭	6年次に新設した「保育」は、福祉系や初等教育系などへの進学希望者に有効だった。
英語	6年次にリーディングとライティングを1時間ずつ増加させ、復習にも充分時間をかけた。

3. FD活動

教員・授業の質的向上を目標に、FD活動を実践した。

A 2009年度は、合計27回の研究授業を行った。

学年	研究授業数	教科別
1年次	7	社会1・数学4・理科2
2年次	4	数学3・美術1
3年次	4	数学3・理科1
4年次	6	社会1・数学4・理科1
5年次	5	国語1・数学2・理科1・保健体育1
6年次	1	美術1

B 学年会等で研究協議を行い、生徒の様子や授業内容等の共通理解を深め、クロスカリキュラムへの発展を目指した。

C 研修会等への出席を奨励し、延べ60人の教員が外部研修会に参加した。

4. 研究指導の充実

A 「総合的な学習の時間」に、個人研究「私の研究」、共同研究「昭和祭研究」を運営し、生徒の研究を指導した。

私の研究＝1・3・4・5年生が各自でテーマと指導教諭を決めて行った。

昭和祭研究＝統一テーマを『職彩』（職業研究）とし、1年次から5年次までクラス単位で研究をすすめた。成果は昭和祭（文化祭）で展示発表した。

- B SELHi（文部科学省 Super English Language High School 指定校）の研究により本校が開発した「英語プロジェクト」は、4・5年生を対象とする教員講座として継続して実施した。2年生には The Boston Mission で必要となる事前学習を行った。

5. 保護者との連携

SPC（Showa Parents Club）活動として、保護者見学会を以下の学校行事で実施した。（8回）

実施日	内容	対象	参加数
5月9日	学寮（1年生）・東明学林	1年生	76家庭
5月9日	学寮（2年生）・望秀海浜学寮	2年生	43家庭
5月21日	授業参観	全校	296家庭
5月28日	コーラス	全校	20家庭
9月5日	スポーツ	全校	4家庭
9月29日	5年生 学寮（望秀海浜学寮）	5年生	4家庭
10月29日	授業参観	全校	167家庭
12月19日	クッキング	全校	13家庭

6. ブリティッシュ・スクールとの交流

クラブ活動や朋友班活動でブリティッシュ・スクールとの交流機会を設けた。

また、合同絵画制作等で、教師・生徒間の連携機会を増やした。

7. 海外研修プログラム

A ボストン研修

昭和ボストンでの英語研修 The Boston Mission（2年次必須）を実施した。

2009年度 The Boston Mission

グループ名	研修期間	参加生徒数	引率教員数
第1グループ	2010年3月6日→17日	2年生123人	8人
第2グループ	2009年3月17日→28日	2年生121人	7人

Adventure Program と Discovery Program は、新型インフルエンザの影響により中止とした。

プログラム	研修期間	参加生徒数
Adventure Program（中学生）	7月21日→8月11日	中止
Discovery Program（高校生）	7月21日→8月11日	中止

B 英国短期留学

研修期間	参加生徒数	研修先
3月8日→3月30日	31人	イギリス・フランス

8. 安全対策の推進

- A 震災・防災・防犯に関するマニュアルの整備と訓練を徹底し、安全対策を充実させた。
- B 緊急地震速報を全館に導入し、エレベータに非常対応品を設置した。
- C 新型インフルエンザ対応リーフレットを配布し、行動計画を作成した。

9. 進学状況

2009 年度卒業生の進路は、以下の通りである。

内容		人数
大学	学内進学者	67 人
	学内進学者（五修生）	31 人
	学外進学者	60 人
短大	学内進学者	13 人
	学内進学者（五修生）	2 人
	学外進学者	7 人
専門学校進学者		7 人
浪人等		6 人
合計		193 人

他大学合格状況は以下の通りとなった。

国公立	早慶上理	MARCH	その他大学
1 人	5 人（うち浪人 2）	9 人	63 人（うち浪人 2）

合格者数は延べ人数

昭和小学校

1. 教育指導力の向上

- A 本校において、6月5日に日本私立小学校連合会東京地区教員研修会を開催した。約1,400名の参加者とは、授業公開後に教科ごとに意見交換の場を持った。
- B 上記研修会の成果をもとに、各教科のカリキュラムとその意図する点を小冊子にまとめた。2010年度には、この冊子を全保護者に配布する計画である。
- C 初等部内で研究授業3回、初任者授業研究6回、全体研究会7回を実施した。また、日私小連夏季研修大会、東初協一斉研修会・半日研修会をはじめとして学外各種研修会へ多数参加した。

2. 授業内容の充実

1 講時を5分間延長して45分間とし、授業の導入とまとめにゆとりを持たせた。

3. 他と連携したプログラム

- A 東明学林の近隣住民の協力を得て、春の宿泊研修（田園学寮）で4・5年生全員が田植えを体験した。このうち希望した約200名の親子には、秋季に稲の刈取りと収穫体験の機会を用意した。
- B ブリティッシュ・スクールとの連携プログラムとして、クリケット、サッカー、バスケットなどのスポーツ交流、初等部4年生の教室訪問、もちつき、英語サークル等を実施した。

4. ボストン海外研修旅行

ボストン研修「Friendship Tour」を8月3日から13日までの日程で計画していたが、新型インフルエンザの影響により中止とした。

昭和幼稚園

1. 幼稚園活動の充実

- A 世田谷聖母幼稚園を訪問し、見学と意見交換を行った。
- B 世田谷区私立幼稚園協会等が開催する外部研修会に参加した。

開催日	研修内容
9月16日	造形・作って演じる楽しい人形劇
1月20日	指導記録の記入のポイント
1月27日	子供の発達と絵本
2月24日	最近のちょっと気になる親と子どもへの対応

その他、東京都私立幼稚園協会や各種団体が開催する夏季教員研修会に、各教員が参加した。

- C 附属合同研修会終了後、渡辺和子氏の講演DVD「こころの教育と親の役割」を全員で視聴した。

2. 幼小一貫教育の充実

- A 幼稚部教師が初等部低学年の授業を見学した。
- B 入園試験の内容を変更した。
幼少一貫教育では保護者の積極的な協力が不可欠なため、昭和教育に理解のある保護者を選ぶべく面接の方法を根本的に改めた。

IV オープンカレッジ

1. 講座開設状況

2009年度の開設講座数と延べ受講者数は、以下の通りである。

開設講座数	838 講座
延べ受講者数	5,914 人

2. 大学との連携講座

2009年度に実施した単位認定講座は、以下の通りである。

単位数	講座名	受講者数
2	IT パスポート試験対策講座	13 人
5	総合旅行業務取扱管理者対策講座	26 人
3	国内旅行業務取扱管理者対策講座	15 人
1	秘書技能検定 2 級対策講座(前期)	73 人
1	秘書技能検定 2 級対策講座(後期)	40 人
1	秘書技能検定準 1 級対策講座	28 人
1	カラーコーディネーター 2 級対策講座	26 人
4	公務員試験対策講座 (地方上級・国家Ⅱ種)	39 人
1	公務員試験対策講座 (地方初級・国家Ⅲ種)	6 人
合計		266 人

V 昭和ボストン

1. 施設の活用状況

2009年度に昭和ボストンが提供した他大学・社会人研修プログラムは以下の通りである。(13プログラム)

プログラム名	対象	期間	人数
JTB ボストン満喫熟年留学	一般社会人	6月7日→6月20日	15人
同志社小学校 *	同志社小学校	6月13日→6月16日	—
JTB ボストン・サマースクール *	一般女子中高生	7月23日→8月6日	—
JTB ボストン・サマースクール *	一般女子中高生	7月30日→8月13日	—
Boston Summer Session	立命館大学	8月17日→9月14日	36人
Boston Summer Session	京都光華女子大学	8月17日→9月14日	1人
University Program	京都光華女子大学	9月22日→2月17日	1人
成人式ツアー	ボストン滞在学生家族	1月7日→1月11日	20人
立命館 CELOP	立命館大学	2月7日→3月6日	44人
日本語教育実習	日本語教育学生	2月19日→3月5日	3人
アメリカ栄養士研修	京都光華女子大学	2月19日→3月5日	3人
同志社小学校	同志社小学校	3月18日→3月21日	13人
同志社香理高等学校	同志社香理高等学校	3月28日→4月3日	19人

※新型インフルエンザの影響により中止

VI 人見記念講堂

1. 文化講座開催状況

2009年度に大学の授業として実施した講演・コンサートは、以下の通りである。

A 文化研究講座（19 講座）

日付	公演者
4月22日	読売日本交響楽団
4月24日	平松混声合唱団
5月14日	雅楽 十二音会
5月18日	オペラ 「戦争と平和」
5月22日	小野根真 & ノー・ネーム・ホースイズ
5月26日	国立モスクワ合唱団
6月2日	ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団
6月15日	吉野直子（ハープ）&クレメンス・ハーゲン（チェロ） デュオ・リサイタル
7月6日	GONTITI（ゴンチチ） プレミアムコンサート
10月16日	手塚治生誕80周年記念ミュージカル「火の鳥」～鳳凰編～
10月19日	落語鑑賞会 春風亭小朝独演会
10月27日	バレエ「白鳥の湖」
11月17日	ウィーン・フィルハーモニア・ピアノトリオ
11月20日	ヘンデル・オペラの名アリア
11月26日	佐藤しのぶ ソプラノリサイタル
12月7日	映画「ディア・ドクター」
12月10日	映画「正義のゆくえ」
12月14日	10人のミラクル・トランペッター クリスマス・コンサート
12月16日	映画「ラスト・ゲーム」

B 女性教養講座一覧（17 講座）

日付	演題	講師
4月15日	勝つリーダー、負けるリーダー	スポーツジャーナリスト 二宮清純 氏
5月13日	日本文化の中の「日本的なもの」とは何か	国際交流基金理事 小倉和夫 氏
5月20日	幸福について考える	作家 佐藤愛子 氏
5月23日	シャーロック・ホームズと ヴィクトリア朝後期のイギリス社会	多摩大学教授、昭和女子大学監事 河村幹夫 氏
5月27日	みんな地球に生きるひと	歌手・教育学博士 アグネス・チャン 氏
6月17日	オペラに学ぶ恋愛の作法と真実	フリーアナウンサー・コンサートソムリエ 朝岡 聡 氏
6月20日	人生の生き方	参議院議員・弁護士・弁理士 丸山和也 氏
7月4日	現代の若者と「生きづらさ」	精神科医・立教大学現代心理学部教授 香山リカ 氏

日付	演題	講師
7月8日	豊かなセクシュアリティを生きる	医師・(社)日本家族計画協会常務理事 クリニック所長 北村邦夫 氏
10月14日	女性と命を考える	国連人口基金東京事務所長 池上清子 氏
10月21日	世界の潮流変化と日本	(社)日本経済研究センター特別顧問 小島 明 氏
10月28日	パーソナリティの特徴	学校法人ノートルダム清心学園 理事長 渡辺和子 氏
11月4日	官僚から政治家へ	民主党衆議院議員 篠原 孝 氏
11月11日	各自に与えられたいのちをどう上手に生きるのか —98年の生涯から得られた学び—	聖路加国際病院理事長・同名誉院長 日野原重明 氏
11月18日	アラブ文化とイスラーム	元NHKテレビアラビア語講座講師 慶應義塾大学講師・獨協大学講師 師岡カリーマ・エルサムニー 氏
11月24日	アジアの今、女性と貧困 —国際社会のチャレンジ— (公開フォーラム)	女性人権機構
12月2日	新たな可能性に挑む	和紙デザイナー 堀木エリ子 氏

VI 光葉博物館

2009年度の展示は、以下の通りである。

日程	内容
4月2日→4月9日	光葉博物館収蔵 授業資料展 2009 —宮廷装束を中心として—
4月16日→4月18日	昭和女子大学オープンカレッジ作品展示会
5月15日→6月13日	大学院文学研究科 35周年記念 昭和女子大学図書館貴重書展
6月29日→7月2日	ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ アート/デザイン・テクノロジー展
7月→10月 (21日間)	収蔵資料展 —農耕・養蚕・製糸の民具を中心として—
10月26日→11月21日	秋の特別展「姿を変えた着物たち」
12月9日→12月16日	第3回昭和女子大学絵画・写真展
1月12日→2月5日	新春収蔵資料展 —雛・天神人形、複製浮世絵版画など
2月23日→3月16日	昭和女子大学 卒業制作展 2009

Ⅶ その他関連事業

特定非営利活動法人 NPO 昭和

1. 「子育てステーション世田谷」の運営と地域貢献活動

世田谷区の委託を受けて子育てステーションを運営し、積極的に自主事業を実施した。

子育てステーション世田谷（昭和女子大学オープンカレッジ内）	
施設名	状況
子育てひろば	区内の子育て家族の集いのひろば 年間延べ 11,170 組・23,471 人（1 日平均 31 組・65 人）が来室した。 NPO 職員が 722 件の子育て相談に対応した。 お誕生会・各種子育て支援イベントを毎月企画し実施した。
ほっとステイ	区内在住の就学前の子どもの一時預かり施設 年間延べ 3,758 人（1 日平均 11 人）を保育した。
発達相談	発達障害相談 昭和女子大学生生活心理研究所が年間 18 件の発達障害相談に応じた。
昭和ナースリー	認証保育所・認定こども園（0 歳児から就学前） 2010 年 3 月末の在籍児童数は 59 人（定員 66 人）

2. 「世田谷区立男女共同参画センターらぷらす」の運営と地域貢献活動

A 「わくわくワークフェスタ」の開催

世田谷区内の女性起業家が参加する「起業ミニメッセ」や講演会を企画・運営した。

日時	12 月 5・6 日
場所	キャロットタワー 4・5 階
起業ミニメッセ出展事業者数	51 企業・団体
来場者数（2 日間）	延べ 2,224 人
その他実施イベント	講演会：福沢恵子氏（5 日）・川野真理子氏（6 日） 人形劇・あそびのおもちゃ箱

B 講座の企画・運営

2009 年度は、下記のテーマで講座を企画・実施した。

テーマ	講座数	受講者数（延べ数）
男女の人権尊重	3	177
あらゆる分野への男女共同参画の促進	11	572
少子高齢化社会の男女の自立を促進	16	563
男女がいいきと働くことができる環境の整備	4	185

C 蔵書の充実

施設内にある図書室を管理し、昭和女子大学の図書館司書との選書会議により蔵書を充実させた。